

高 伊那北高校同窓会報

発行
伊那北高等学校同窓会
TEL 0265(72)7312
FAX 0265(76)5585
inakitadoso@giga.ocn.ne.jp
印刷 布マスマタ印刷

県教委、母校と伊那弥生ヶ丘高の再編統合を決定

長野県教育委員会は令和2年9月14日、伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校との再編統合を決定した。昨年3月下旬の統合案の発表から約半年での決定となった。

上伊那内に新設予定の総合学科高校・総合技術高校に関する二次案は来月示される。

「伊那北高校の将来像を考える会」開催

10月3日に、宮田村民会館で同窓会主催の「伊那北高校の将来像を考える会」が開催された。約60名が出席。冒頭、県教委の担当者から9月に決定した「伊那新校(仮称)」について説明があった。

質疑応答では、県教委に対し「県教委の再編統合決定は拙速」、「統合決定のプロセスに問題がある」、「説明会で少

統合決定までの動き

昨年3月24日に、県教委は「第II期再編・整備計画」1次案で母校と伊那弥生ヶ丘高校との統合案を発表した。

人数学級を求める意見が多数あった。計画の見直しを「等慎重さを求め、反対の意見が多く上がった。また同窓会の再編統合問題への対応を疑問視する意見も出された。

会終了後提出された記述式アンケートでは県教委の決定について賛否が拮抗していた。

県教委からは少人数学級に關して、「モデル校において教育効果や効果的な学級規模及び運営のあり方を研究しており、選択授業や習熟度別授業などの少人数授業は多くの学校ですでに実施している」との回答があった。

一方、「プロセスをきちんとして踏んできた上での結論。子供たちの将来のため前に向かって進むべきだ」、「地域の子どもにとって良い教育を」との賛成意見も上がった。



伊那北高校の将来像を考える会

参加者からは、県教委の案に賛否両論が出された。少人数学級を求める声が多く出されたが、「公立高校の教員数は、現行法で生徒定員をもと

に決められているので、少人数化して学級数を増やしても増えない」と指摘する意見も出された。「伊那北と弥生の統合により普通科志望の生徒の枠が狭まる」との危惧の声も上がった。

地域の有志による「高校再編を考える上伊那の会」は、8月から9月にかけて2回シンポジウムを開催。赤穂高校同窓会・駒ヶ根工業高校同窓会、NPO法人子ども・若ものサポートハミングの代表と高校教員によるパネルディスカッションが行われた。上伊那の中学生が地区内の高校に進学できる率が県下で最低レベルとの指摘があり、地域の子を地元の学校でより育むことを求めた。

県教委「懇話会」始まる

県教委は11月26日、県伊那合同庁舎で第1回「伊那新校再編実施計画懇話会」を開催。

同会は伊那北・弥生の学校関係者(教員、同窓会、PTA、生徒の各代表)、地域の代表ら計27名で構成。この会では、「目指す学校像・設置学科・学級数・募集開始年・教育課程・校地校舎・校名」などを検討する。校地については、懇話会の構成員から専門委員を選び検討を進める。

令和3年度 定期総会

- 日時：令和3年6月5日(土) 午後1時30分から (受付) 午後1時から
- 場所：伊那市生涯学習センター (いなっせ) 6階ホール

コロナウイルス感染状況に応じて予定を変更する場合があります。

同窓会有志 請願署名、県議会に提出

昨年8月中旬から活動を開始した同窓会有志の会は、弥生ヶ丘高校同窓会の有志と会を結成。

11月4日、伊那市役所で「伊那北・弥生ヶ丘の存続を求める」声明を記者会見の場で発表。「住民説明会で見られた意見が全く反映されていない決定だ」とし、「上伊那の再編統合の全体像を示した議論を再度行う」よう求めた。その後署名活動を行い、12月1日県議会の議長に4817筆の署名を提出し請願を行った。この請願は文教委員会ですで8日、本会議では11日に賛成少数で不採択となった。